

令和8年度 都立日野高校における教科指導の重点

重点科目	重点課題	取組	発展的取組
国語	・基礎学力と学習習慣の確立	・授業進度やフィードバックについて確認し、常に評価の見直しを行う。 ・授業内小テストを毎週実施する。 ・POP作成や新書レポートを通じて、読書の機会を設ける。	・教科の視点から、探究的学習の基礎となる力を身につけさせる。 ・漢検受験や小論文コンテスト等の出品を促す。 ・授業のDX化と同時に「書く機会」を担保する。
社会	・社会的な見方や考え方の育成	・歴史総合から世界史探究・日本史探究へ、地理総合から地理探究へ、公共から政治経済への移行を念頭に、各科目の相互連携を意識した授業の実施。 ・グループワークやプレゼンテーションによる言語活動の充実。	・授業や考査で資料問題を多く取り入れることによる、社会的な思考力・判断力の養成。 ・土曜活用日や夏期講習を通じた受験学力の養成。
数学	・基礎計算能力の定着 ・思考力・判断力・表現力を働かせた数学的活動	・小テストや定期的な補習・講習を実施。 ・問題解決の過程を論理的に考察する力を、ICT機器等を用いて考え、まとめさせる機会を授業の中で設定する。	・問題解決の過程において、論理的に考察する活動をグループワーク等を通じて行い、他者の考えと自己の考えを意見交換する場を設定し、多面的な考察力の向上を目指す。
英語	・4技能の伸長を目指した活動の充実	・JETやALTの活用し、「話す」活動をグループワークやペアワークで行う。 ・まとまった量の英語を読む活動を行う。 ・オンライン添削やAIを活用した英作文の練習を行う。	・JETの授業でスピーチを実施。 ・英語の検定試験の学年全体での受験。 ・レシテーションコンテストの実施。
理科	・観察・実験を通じた「科学的に探究する力」の育成	・観察・実験結果の予想と班で得られた結果を踏まえ、グループ議論等を通して考察する場を設ける。 ・上記の内容をICT機器を活用しながらまとめ、レポート作成、提出まで行う。	・実験結果で得たデータを集計して考察し、発表する機会を授業内で設けることで様々な視点から考える力を養う。 ・夏期講習や土曜活用日を使い、受験に対応できる力を身に付けさせる。
情報	・情報の科学的な理解を土台とした情報活用能力を育む	・自分の意図した表現ができるようにパソコンの基本的なスキルの定着を図る。 ・インターネットなど情報技術の仕組みを理解できるよう、仕組みを重視して指導する場面を設ける。 ・情報デザインやプログラミングの單元などで、試行錯誤して取り組む場面を設ける。	・答えが一つに定まらない内容では、考える場面を設け、様々な見方をTeamsなどで共有し、思考の幅を広げる。 ・共通テストなどの大学入試問題を考査などで取り入れ、入試にも対応できる学力の定着を図る。